

## 編集後記

初等部の100年は2027年です。初等部の先生達は今、子ども自身が自分から学ぶためにどうしたらいいのかと考え、議論、実践する事が増えています。今回の年報は、そのスタートとなったと確信しています。大きな歩みへの小さな一歩ですが、現在の初等部の教育をまとめられた事を嬉しく思います。子ども達と家庭と共に初等部は次の100年に向けて歩み続けます。

初等部 高橋 出

今回の学業報告会も生徒が探求したいことを基本に取り組んできましたが、SDGsに関連したテーマに取り組んだグループがこれまでと比べて多くあったのが特徴的なことでした。この報告書を通して当日の発表や展示では見えづらい、学びの過程をご覧いただければ幸いです。

男子部 山縣 基

2020年の年報は、学業報告会の学びの報告が主になりました。2024年から始まる自由学園での新しい体制に向けて、学業報告会での学びや、日々の学業や生活を通して生徒が主体的に取り組みながら、どのような力を身につけ自分自身を伸ばしていくのかが、問われていると思います。その

記録の一つとしてこの年報が活用されていくことを願っています。

女子部 星住リベカ

今号では最高学部の報告会についての記事とともに、体操会の教育的意義に関する考察が掲載された。最高学部では学んでいる学生を通じて、自由学園の教育成果を俯瞰することができるが、幼稚園から大学までの段階的な成長を見て取れることは自由学園の大きな特質であり、コロナ禍での対面講義・身体活動の意義の再認識にも通じると感じた。

最高学部 奈良忠寿